

練馬城址公園「古城の塔」の劣化状況等の調査結果を報告します

東京都では、練馬城址公園の計画区域内にある「古城の塔」について、建物の状況等を調査しています。今回、建物上屋の劣化状況等についての調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

【調査結果概要】

○ 建物上屋の耐震性

1階、2階の構造耐震指標 I_s 値（建物の耐震性能を示す指標）が0.3未満であり、基準値（0.6以上）と比べて相当低い

⇒ 耐震性能が不足しており、大規模な地震により倒壊や崩壊の危険性が高い

※1920年代の建物であり、設計図書が存在しないため、基礎形状等は不明

○ 鉄筋コンクリート造の建物躯体の劣化状況

コンクリートの中性化※が顕著に進行（中性化の深さが2階部分で67.3mm）

⇒ 中性化の進行により鉄筋が腐食し、コンクリートの表面剥離や耐荷力低下等が生じる可能性

※コンクリートの中性化…強アルカリ性であるコンクリートが、大気中の二酸化炭素により中性に近づくこと。鉄筋が腐食する原因となる。

【今後の対応】

○ 建物を使用することとした場合の改修コストや工期等の調査を行う

○ 展示用途で建物を残す場合の改修コストや工期等、及び建物を撤去する場合の代替案等について調査を行う

位置図



現況写真（R2撮影）

